

○研究の概要（高山村立高山中学校の取組）

1 道徳教育の諸計画の見直しと環境づくり

- 一層伸ばしたい道徳性として「向上心・個性の伸長」「役割と責任の自覚・集団生活の向上」と、いじめの未然防止の観点から「人間愛・思いやりの心」「生命尊重」を25年度に引き続き重点指導内容項目とし、複数の資料による授業を設定した。
- 校長が示した26年度道徳教育の基本方針に基づいて道徳教育の諸計画を見直し、「私たちの道徳」に掲載されている資料を各学年の年間指導計画に位置付け、指導することとした。
- 話し合い活動を活発にするために「道徳 話し合いの約束」をつくり、生徒同士で意見交流ができるようにした。教室壁面に道徳コーナーを設け、道徳の時間に学習した際の生徒の意見や感想を模造紙にまとめ、毎月掲示した。

2 道徳の時間の充実

- 年間指導計画に基づき、道徳の授業を計画的・発展的に行った。授業を行うに当たって別葉を参照し、これまでその内容項目についてどのような指導がなされてきたかを確認し、道徳の授業を補充・深化・統合のいずれを意図して行うかを決めた。
- 指導観（価値観・生徒観・資料観）を明確にし、資料に描かれた道徳的価値を正しく理解させるための中心発問を吟味した。さらに、自分との関わりで道徳的価値をとらえさせ、道徳的価値を発展させていくことへの思いや課題を培うためにはどのような発問が適切なのかを検討し、発問を構成した。（発問の工夫）
- 道徳的価値の理解を深めるために、資料との出合わせ方・場面絵・板書やワークシートの在り方を検討した。なかでも板書は学習したことが視覚的に把握できるよう、事前に板書計画を立て、構造的に表すよう努めた。（資料提示の工夫）
- ワークシートに共通の自己評価項目を設け、毎時間自己評価させた。また、4月・7月・12月・2月に道徳意識調査を行い、生徒の変容を探った。（評価の工夫）

3 体験活動を生かした道徳教育の推進と家庭・地域との連携

- 学校・学年行事の体験を通して感じたことを共通の振り返り用紙に書かせ、その記述から生徒の心の変容を見取るようにした。振り返り用紙は道徳ファイルに保管し、道徳の時間に価値への意識付けや自分の考えを振り返る場面で活用した。
- 保護者・地域へ向けて道徳の授業公開や講演会（JAXA 教育講演会「宇宙の不思議を探る」）を行った。学級通信や学校だよりを通して本校の道徳教育の様子を知らせた。

4 研究の成果

- 道徳の時間の指導に当たって、教師は道徳教育の全体計画別葉を参照し、補充・深化・統合のいずれの視点で授業を行うべきかを考えるようになり、日々の教科指導においても教科のねらいと共に道徳の内容項目を意識して授業を行うようになった。
- 道徳教育の諸計画を整え、年間指導計画に沿って道徳の授業を実践してきたことで、道徳の時間の学習に意味を見だし、興味をもって取り組む生徒が増えた。
- 発問数をしぼり、場面絵やワークシート、板書などを工夫して授業を行ったことにより、道徳的価値や自分の生き方についてワークシートに自分の考えを表すこと（自己決定）ができるようになってきた。少人数グループでの意見交流活動が定着し、自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりして感じたことやさらに考えたことなどを全体場で発表できる生徒が増えてきた。
- 体験活動後の感想には、感動した思いや御世話になった方々への感謝の気持ちが綴られており、それぞれに望ましい道徳性が育っている。
- 道徳の時間と教育講演会、生徒会活動を通していじめの未然防止に取り組んだことで、自分も他（友達）も大切にしようとする生徒が育っている。

高山村立高山中学校の研究内容

1 学校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	生 徒 数
たかやまそんりつたかやまちゅうがっこう 高山村立高山中学校	吾妻郡高山村中山3750-1	0279-63-2002	1 1 5 人

2 研究課題 自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成

－自己決定を導く資料提示や発問の工夫を通して－

3 研究課題の設定理由

本校は、自然環境に恵まれた中山間地域に位置し、祖父母と同居の三世帯家庭が多い。高山村の教育行政方針である「明るく かしこく たくましく」を受け、「心身ともに健康で、高い知性・豊かな感性・たくましい意思と創造力をもち、郷土を愛し、人間性豊かな生徒を育成する」を学校教育目標として掲げている。

生徒は、純朴かつ真面目であり、落ち着いた態度で日々の学習や学校行事、部活動などに取り組んでいる。教科の学習や道徳の時間における生徒の様子を観察すると、道徳的心情と判断力は望ましい傾向にあるが、実践意欲や態度などの道徳性は十分に身に付いているまでには至っていない。内容項目で見ると、「自分自身に関すること」では、心身の健康の増進については望ましい傾向にあるものの、生活習慣やより高い目標を掲げて粘り強く努力しようとする態度に欠ける面が見られる。「他の人とかかわりに関すること」では、思いやりの心や信頼・友情を大事にしている生徒が多く、友達関係は良好と思われるが、礼儀や時と場に応じた言動については課題が残る。幼稚園・小学校・中学校がそれぞれ1校（園）という高山村で義務教育を終えるまで同じ集団で育つ本校生徒は、男女の区別なく親しくすることができる。一方、長い付き合いの中で互いの見方や交友関係が固定化されているように思われる面もある。自分に自信をもてない生徒が多く、多様なものの見方や相手の立場を尊重する姿勢、謙虚に学ぶ姿勢について、向上が望まれる。「自然や崇高なものとかかわりに関すること」では、自然愛護や美しいものに感動する心は備わっているが、人間のもつ弱さ・醜さを克服する強さや気高さについての認識は高くない。「集団や社会とかかわりに関すること」では、法や決まりの遵守、学級や学校における集団生活の向上についての意識は高いが、勤労の尊さを知り、家族の一員としての役割を果たそうとする意識は弱い。

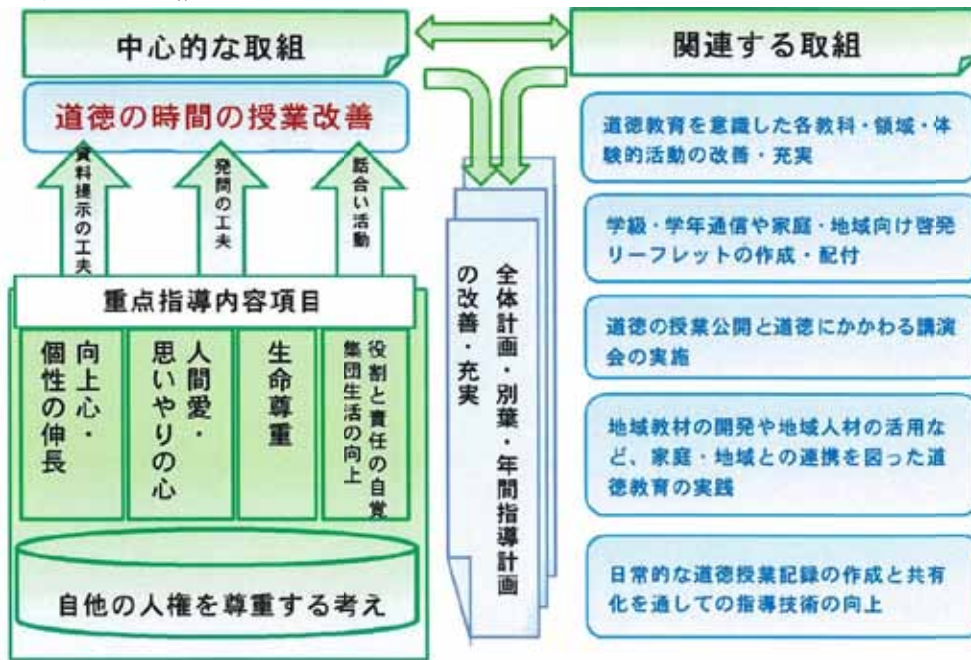
このような実態から、本校生徒がこれからの自分の人生を切り拓く力を身に付ける上で大切なのは、自分のよさに気づき、自己をより肯定的に受け止められるようにすること、先人や友達など他から学び、自己の生き方に照らし合わせてこれからの生き方を考えていくことであると考えた。そこで、効果的な資料提示の仕方や発問構成を工夫するなど道徳の時間の指導を改善・充実させていく取組を推進することにより、よりよく道徳的実践力の育成を図ることができると考え、本研究主題を設定した。

4 研究の概要

(1) 研究のねらい

昨年度は、生徒の実態や発達の段階を踏まえ道徳的実践力を育成するために、効果的な資料を選定し、年間指導計画に位置付けた。今年度は、これに沿って35時間の道徳の時間を、資料提示の仕方や発問構成を工夫し、話し合い活動を取り入れるなどして充実したものとすることにより、資料に描かれている道徳的価値を理解させ、自己の生き方を振り返って道徳的価値に基づいた人間としてのよりよい生き方についての自覚が深められるようにする。そして、自己評価や道徳意識調査を実施することにより、本研究の取組の有効性を検証する。

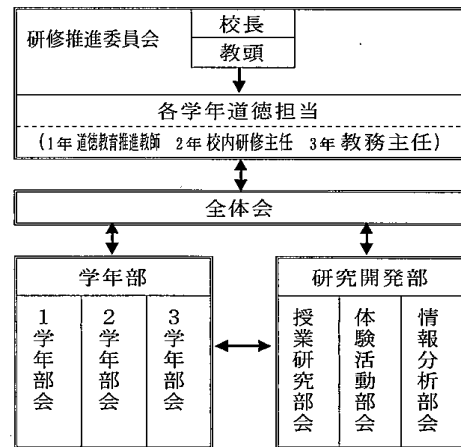
(2) 研究の全体構造図



(3) 研究の経過

月日	研究の主な取組	進捗状況・研修会参加	月日	研究の主な取組	進捗状況・研修会参加
4. 7	25年度の研究方向性と指導案形式		7. 25	⑩道徳授業の組立と指導案の作り方	
4. 7	①25年度の研究の方針と生徒の実態把握		8. 8	道徳授業パワーアップセミナー(東京学芸大) / 3名	
4. 21	②道徳教育の全体計画及び部活動の見直しと校内研究組織の改編		8. 25	⑪7月道徳意識調査の分析と掲示物作成	
4. 23	授業参観における道徳授業公開		9. 4	一人1授業 1年音楽科「オリジナルケチャ」4-(4)	
4. 28	③26年度年間指導計画の修正		9. 8	公開授業及び指導案検討	
5. 14	一人1授業 3年社会科「世界恐慌日本の中国侵略」4-(2) (10)		9. 22	⑫第4回指導主事要請訪問 第2学年1-13 「自立をたずけた手紙」文部科学省 澤田課長官講話	
5. 19	④4月道徳意識調査の分析		9. 29	⑬模擬授業及び指導案検討	
5. 26	⑤4月道徳意識調査の分析		10. 20	⑭模擬授業及び指導案検討	
5. 28	道徳教育指導者養成研修(筑波) / 1名 ~30日まで		11. 4	⑮発表会準備	
5. 29	⑥指導主事要請訪問における道徳授業公開		11. 14	道徳教育総合支援事業発表会	
6. 2	⑦道徳教育指導者養成研修(筑波) 伝達		11. 17	⑯11. 14の反省と授業研究会研究紀要原稿の校正	
6. 9	一人1授業 2年理科「化学変化とその利用」1-(4) 2-(5)		11. 20	道徳教育総合支援事業発表会(船橋六小) / 2名	
6. 23	⑧模擬授業及び指導案検討		12. 2	JAXX教育講演会「宇宙の不思議を探る」講師:上杉邦彦名誉教授	
6. 30	⑨第1回指導主事要請訪問 第3学年3-1 「キミばあちゃんの手紙」		12. 8	⑰研究紀要の原稿のまとめ方	
7. 3	一人1授業 2年英語科「Unit3 My Future Job」1-(5)		12. 15	⑱12月道徳意識調査の分析と掲示物作成	
7. 7	道徳教育総合支援事業研究指定校ブレ発表会(船橋六小) / 4名		12. 25	道徳教育実践報告(文部科学省にて)研究紀要の校正	
7. 10	一人1授業 1年数学科「文字式の利用」1-(4) 2-(2)		1. 19	⑲取組の反省と今後の方向性	
7. 11	一人1授業 1年国語科「星の花が降るころに」2-(3) (4)		2. 15	⑳全体計画・年間指導計画などの見直し	
7. 14	⑩第2回指導主事要請訪問 第1学年4-(4) 「むかで競争」模擬授業		2. 23	㉑2月道徳意識調査の分析と掲示物作成	
7. 23	⑪第3回指導主事要請訪問 第2学年2-(5) 「あいつの一言」模擬授業 白木みどり教授講話		2. 27	高山村研究所研究発表会	

(4) 校内の指導体制の充実



全教師が力を発揮できる研究推進体制として、学年部・研究開発部を組織した。(上図参照)

学年部 部会長は学年主任。道徳の時間における教材準備(場面絵・ワークシートなど)、指導案の検討、ワークショップ型の授業研究会の運営、毎月の道徳掲示物作り、道徳教育の全体計画・別葉・年間指導計画などの諸計画の見直しを担当。

研究開発部

- 授業研究部会…担任5名で組織。部会長は道徳教育推進教師。道徳の授業づくりを研究。
- 体験活動部会…部会長は「総合的な学習の時間」主任。学年・学校行事後に感想を記すための共通の振り返り用紙を作成。担任は、この振り返り用紙の感想から生徒の心の変容(道徳的実践力の芽生え)を見取るものとし、道徳ファイル『のびゆく心』に蓄積して道徳の時間の価値への意識付けや自分自身を振り返る場で活用。
- 情報分析部会…部会長は進路指導主事。21の質問からなる『道徳意識調査』を4月・7月・12月・2月の4回、全校一斉に行い、生徒の変容を分析。

(5) 道徳の時間の指導の工夫

① 明確な指導観をもつ

指導案には、価値観・生徒観・資料観について授業者の考えを明記し、道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫を示すこととした。まず、本時の内容項目について学習指導要領解説をよく読み価値を分析し、これまでにどのような指導を行い、生徒が成長した点や未熟な点、身に付けさせたい力は何かを明らかにした。最も大切にしたのは資料分析である。ねらいとする道徳的価値に大きく関わる箇所はどこか、資料をどのように扱うかを考え、指導案に記した。別葉を参照し、本時の授業を補充・深化・統合のいずれを意図して行うかを決めた。これらの検討によって、資料を通して迫りたい価値から外れずに授業を行うことができるようになった。

② 効果的な資料提示の工夫

文章の読解が不得手な生徒も道徳的価値を理解し、自分の思いが表現できるように、次のア～ウについて視覚・聴覚に訴える提示を心がけた。

ア 構造的な板書…場面絵や発問を掲示し、生徒の意見を中心にまとめる
イ ワークシート…生徒の考えを引き出す工夫（吹き出し、手紙形式など）
ウ 終末（導入）…道徳的価値を生徒の心に刻む工夫（詩の紹介、映像資料など）

③ 発問の工夫

中心発問を設定する上で次のア～ウを大切にした。そして、生徒の反応を予想

ア 本時に理解させたい内容項目に合致している
イ 多様な考えを引き出すことができる
ウ 全生徒にとって取り組みやすい課題である

して発問構成を考えるとともに、理解を深めるための切り返し発問を用意した。

④ 模擬授業の実施

資料提示や発問構成が効果的であるかどうか、教師が生徒役となる模擬授業を行い、確かめた。下の写真はいずれも左が模擬授業。模擬授業を通した検討を重ねた結果、授業の流れと板書が大きく変わった。



⑤ 意見交流の場の設定

道徳的価値に対する様々な考えにふれさせる（他者理解を深める）ために、隣同士のペアや3～4人の少人数グループで意見交流させたのち、グループでの多様な価値観を参考にして自分はどう思ったかを学級全体で発表し合った。「道徳ではグループの意見をまとめ、答えを出すことが目的ではなく、話し合ったことが個にどう影響するかが重要である」と白木みどり教授（金沢工業大学）より助言を頂いた。「道徳 話し合いの約束」を設けたことで話し合い活動が円滑に進むようになった。普段発言しない生徒も少人数グループの中では自分の考えを伝えることができた。

(6) いじめの未然防止に向けての取組

「思いやり」「生命尊重」を学校の重点指導内容項目として位置付け、複数の資料を選定し各学期に指導している。これらの指導だけでなく、道徳の24の内容項目全てを計画的・発展的に指導することがいじめを許さない集団をつくる上で大切であると考えた。そこで、今年度は年間指導計画に沿って確実に道徳の授業を行い、生徒の感想などを模造紙にまとめて道徳コーナーに掲示し、様々な考え方を紹介した。いじめに関するアンケート調査（7月実施）では5件のいじめが認められたが、様々な取組で改善され、12月調査では0件となった。また、道徳の授業や生徒会活動（人権集会）の取組もあり、道徳意識調査で「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に「はい」と答えた生徒の割合が4月より13ポイント増加し86%となった。

道徳 話し合いの約束
① 人が話しているときは、最後まで聞く。
② 司会役が指名する。指名されてから意見を言う。司会役も意見を言う。
③ 自分の意見は必ず理由を付けて言う。
④ 自分も同じ意見だとしても必ず発言する。 「私も同じ意見で・・・です。理由は・・・。」
⑤ 反対の考え方の時は、必ず理由をはっきりと言う。 「私は○○に反対です。理由は・・・。」
⑥ 理由が納得できたらその意見は正しいと認める。
⑦ 誰かの考え方に納得できる部分があれば、それを参考にして自分の意見を修正してもよい。

5 授業実践事例

(1) 「自己決定を導く資料提示を工夫した道徳の授業」（第3学年）

① 生徒の実態

中学3年という時期は、自分に自信がもてず劣等感や嫉妬心などをもちがちである。一方では、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心もある。生徒は人間の弱さや醜さについて理解しているが、誰もが強さや気高さを併せもっていることに気付いていない。学級では、日頃から互いの考えや立場を理解し、尊重し合うよう指導を行っているが、他人の意見を真摯に受け止める姿勢までには至っていない。

② 授業者の思い

この世に完璧な人間は存在せず、誰もが心に弱さをもち、その弱さを克服しようと日々葛藤し、よりよく生きようとしている。誘惑に負けて楽な方に流れてしまうこともあるが、良心の呵責と戦う中で、一人の人間として生きていくことへの喜びや様々な行いの美しさに気付いたとき、人間は強く、気高い存在となる。本時の学習では、資料を通して人間の強さや気高さに目を向けさせ、自分と向き合い弱さや醜さを乗り越えて生きることこそすばらしさがあり、それを通して人間として生きる喜びを得ようとする態度を育てたい。本時の授業は「深化」を意図して行う。

③ 指導のポイント(深化を意図し、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるための指導の工夫) ア 道徳的価値について理解するために

- 資料の内容理解を深めるために、朝読書の時間に事前に資料を読ませる。(資料提示の工夫①)
- 弱さを乗り越えようとした道信の強さはフキノトウの力強さであることを押さえ、黒板には、智行と道信を白ゆりとフキノトウの絵を提示して対比し整理する。(資料提示の工夫②)
- 厳しい修行に耐えた智行であったが、白ゆりの純白の輝きにその暗い心が圧倒された時の涙について考えさせ、人間としてのおごりや未熟さが智行にあったことに気付かせ、道信と智行が自分に向き合ったことで、生きる喜びが得られたことを押さえる。
- 3～4人のグループでの意見交流の場を設けることで、多様な考えにふれさせる。

イ 自分との関わりで道徳的価値をとらえるために

- 資料における登場人物の心情の変化から学んだ道徳的価値をもとに、今までの自分を振り返り、自分の心の中の弱さや醜さに打ち克てた経験を書かせ、自分も生きる喜びを得られたことに気付かせる。

- ウ 道徳的価値に関わる課題を培い、人間としての生き方についての自覚を深めるために
- 「私たちの道徳」p.120にある詩を読み、誰にでも欠点や弱点があること、誰の心の中にも弱さや醜さがあることに改めてふれ、「人間として生きる喜び」は自分と向き合い、変わろうとする気持ちをもつことから得られることに気付かせる。(資料提示の工夫③)

(2) 学習指導案

- ① 主題名 「自分と向き合う」 3-(3) 強さ・気高さ・生きる喜び
- ② ねらい 人間の弱さや醜さに向き合い、それを克服しようとする強さや気高さがあることに気づき、自分を見つめることで、夢や希望など喜びのある生き方を見いだそうとする態度を育てる。
- ③ 資料名 二人の弟子 (出典 文部科学省 私たちの道徳 中学校)
- ④ 資料の概要

この資料は対照的な性格の二人の修行僧に焦点を当て心情を読み取るものであり、共感しやすい。一度は出奔し荒んだ生活を送った道信だが、再び寺に戻りたいという願いを上人は許す。そのことに納得できない智行は、上人から「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ」と言われる。その意味をはかりかねて夜の庭を歩いているとき、池のほとりに咲く白ゆりの純白の輝きに智行は涙を止めることができない。

道信の心情をとらえることにより、人間の弱さや醜さから立ち直る強さを知り、智行の心情を深く考えることにより、友に厳しくしてしまう醜さに気づき、成長していこうとする二人の心情に思いを馳せることで、自分と向き合い、弱さを乗り越えていこうとする姿勢に、人間として生きることの喜びを感じ取らせることができる資料である。

⑤ 展開の概要

過程	学習活動と発問「 」(◎は中心発問) ・予想される生徒の反応	指導上の留意点(○) 及び評価の観点(☆)
導入 (3分)	1 本時の道徳的価値についての方向付けを行う	○「足袋の季節」で、誰の心にも弱さがあることを学習したことを確認し、本時の道徳的価値を伝える
展開 (37分)	2 資料を読んで話し合う ＜価値理解＞＜人間理解＞＜他者理解＞ (1)「フキノトウのどのような姿が道信の気持ちを変えたのですか」 ・まだ雪が覆っているのに鮮やかな薄緑色 (2)「智行は、道信のことをどのように思いましたか」 ・そんな勝手に許されるはずがない ・道信を許せない ◎(3)「白ゆりの純白の輝きに智行の涙が止まらなかったのは、なぜでしょう」 ・道信のことがどうしても納得できないから ・人間として未熟だと気付いたから ・道信を許せない自分の醜さに気付いたから ・道信と自分を比較していた愚かさに気づき、変わりたいと思ったから	○資料を読んだ後、道信と智行について押さえる ○厳しい自然の中で生きるフキノトウの力強さを押さえる ○智行が道信を許せず、上人の言葉を受け止められないことを押さえる ○ワークシートを活用し、自分の考えを書かせる ○少人数グループで話し合い、多様な考えにふれさせる ○グループでの話し合いをもとに、自分の考えたことを発表させる ○悔し涙をとらえる生徒には、白ゆりが咲く様子にふれ、自分を振り返り自己の愚かさ・醜さに気づき、変わりたいと思ったからこそその涙であることに気付かせる
	3 「私たちの道徳」p.120を読んで本時の道徳的価値を理解する	○詩を読むことで、資料に描かれた道徳的価値の共通理解を図る

終末 (10分)	<p>4 自己を振り返る<自己理解></p> <p>(4)「自分の心の中の弱さや醜さに打ちかてた経験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で挙手できなかったが、自分を変えようと積極的に挙手した ・指示を出すことが苦手だったが、学級委員になってできるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに自分の経験を書かせる ○数名の生徒に発表させる <p>☆自分を見つめ、弱さや醜さを乗り越えようとする思いがもてたか</p>
-------------	---	--

⑥ 実際の板書



(3) 授業記録（中心発問を中心に抜粋 T：教師 C：生徒）

- T：「白ゆりの純白の輝きに智行の涙が止まらなかったのはなぜだろうか」
- T：「時間を4分程度とります」（ワークシートに記入）
- T：「4人の班になって意見交流をしてください」（班に分かれて意見交流後、班を戻す）
- T：「それでは、班での意見交流を踏まえて自分として考えたことを発表してください」
- C1：「白ゆりの純白の輝きが道信のように思えて、やり直そうとしたその道信を追い出そうとした自分を後悔した」
- T：「同じことを書いた人は」→数名が挙手。「ほかには」
- C2：「白ゆりの純白の輝きを見て、自分はなんと器の小さい男なのと思った」
- T：「同じことを書いた人は」→数名が挙手。「ほかには」
- C3：「本当は道信に会えて嬉しかったのに心の中で許せないと思った自分に涙がこぼれた」
- T：「もう一つの意見も発表してください」
- C3：「白ゆりの純白の輝きを見て、心の闇が消えたから」
- T：「なるほど、同じようなことを書いた人」→数名が挙手。「ほかには」
- C4：「変わろうとした道信を許せない自分の未熟さに気付いたから」
- T：「同じことを書いた人」→数名が挙手。「ほかには」
- C5：「許せない気持ちがあるのに、白ゆりを見て感動したから」
- T：「同じことを書いた人」→数名が挙手。
- T：「皆さんの意見をまとめます。追い出そうとした自分を後悔した。器の小さい自分に気付いた。心の闇が消えた。未熟さに気付いた。許せない気持ちはあるが、白ゆりの姿に感動した。道信と同じように、自分と向き合ったからこそ皆さんが発表してくれたことに、智行は気付くことができたのですね。そのことが人間として生きる喜びにつながっていくのですね」

(4) 考察

授業後、「資料提示の仕方」「発問の仕方・内容」「自己決定」の3つの視点から、次のように分析した。

① 資料提示の仕方

- 今回のように長い資料の場合、事前に読み聞かせておくことは資料の概要を理解する上で有効であった。担任の朗読を生徒は真剣に聞き入っていた。



○二人の弟子（智行・道信）の人物像を、それぞれを象徴する白ゆり・フキノトウを掲示して対比し、生徒の意見を加えることで構造的な板書となった。

② 発問の仕方・内容

- 中心発問に至るまでの登場人物の押さえが簡潔で分かりやすかった。生徒が自分の考えをもつための時間を十分にとっていた。
- 模擬授業に比べ、発問が精選されていた。
- 授業者は落ち着いて発問し、生徒の意見を肯定的に受け止めていた。

③ 自己決定

- 資料に表された道徳的価値を理解し、生徒は自分の経験を振り返って記述していた。どの生徒も自分と向き合い、真剣に書いていた。
- 模擬授業を繰り返しての研究授業であったが、生徒の考えは想定を超えるものであり、人には様々な考え方があることに生徒も教師も気付かされた。



模擬授業での板書の一部

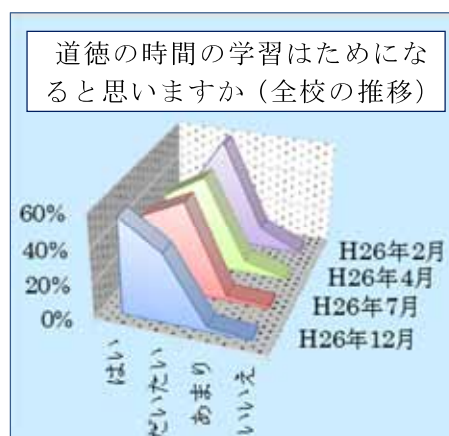


改善された板書（研究発表会）

6 研究の成果及び課題

(1) 研究の成果

- 道徳の時間の指導に当たって、教師は道徳教育の全体計画別葉を参照し、補充・深化・統合のいずれの視点で授業を行うべきかを考えるようになり、日々の教科指導においても、教科のねらいは勿論、道徳の内容項目を意識して授業を行うようになった。
- 道徳教育の諸計画を整え年間指導計画に沿って道徳の授業を実践してきたことで道徳の時間の学習に興味を見だし、興味をもって取り組む生徒が増えた。
- 発問数をしぼり場面絵やワークシート、板書などを工夫して授業を行ったことにより、道徳的価値や自分の生き方についてワークシートに自分の考えを表すこと（自己決定）ができるようになった。少人数グループでの意見交流活動が定着し、自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりして感じたことやさらに考えたことなどを全体場で発表する生徒が増えた。
- 道徳の時間と教育講演会、生徒会活動を通していじめの未然防止に取り組んだことで、自分も他（友達）も大切にしようとする生徒が育っている。



(2) 課題

- 年間35時間の道徳の時間が生徒にとって充実したものとなるよう、今後も質的に高める努力を継続する。
- 生徒同士の意見交流の場や実験・観察などの活動の場、教師の言葉かけにも道徳的な要素が含まれることを日々の指導で常に意識する。生徒の十年後、二十年後の良き姿を思い浮かべつつ関わることを忘れてはならない。
- 生徒の道徳性は、家庭や地域との協力で育まれる。家庭・地域との連携に関わる事業（異校種間交流など）の効果をすぐには求めず、継続して取り組む。

7 参照できるホームページ

<http://www5.kannet.ne.jp/~takayamachu/> （高山村立高山中学校）